

# ワクワク但馬ワークショップ 議事要旨

## 1 概 要

- (1) 日 時 : 令和7年12月1日(月) 13:30~16:30
- (2) 場 所 : 兵庫県立但馬文教府 ふるさと交流館(豊岡市妙楽寺41-1)
- (3) 参加者 : 令和7年6月に開催した「躍動カフェ」で築かれた参加者の皆様(16名)
- (4) 内 容 : 挨拶
  - グループ別ワークショップ(A~Dグループ)
  - 意見発表・質疑応答(A~Dグループ)
  - 局長コメント

## 2 意見発表の内容

### A 担い手不足

発表者：家元 貴司

#### 現状と課題：

- 少子化により小中学校が統廃合され、廃校が増えてきている。また住民は、廃校後の利用(売却)を知らない。
- 農業や水産は、仕事のイメージが沸かないため、就職先として候補にあがりづらい。また農業をするうえで、草刈・水路の泥上げ等の作業は、女性には重労働になるため、女性従事者が少ない原因もある。
- 生活するためにはお金が必要だが働く場がなく、高校卒業後70%が都市部へ出ている。
- 若者が定住しない。若者の働く場所がない。若者の離職率が高い
- 都会に比べて、リモートワーク・働く時間帯等の働き方の柔軟性に対応している企業が少ない。

#### 課題解決に向けて：

- SNSにより但馬の企業や魅力を発信し、但馬のことを知ってもらう。
- 農村に住みながら、最近の子供達は土に触れる機会がないため、学校の授業に一次産業・二次産業を体験させるカリキュラムを組む。
- 一次産業のイメージアップをするため、若者が働いてみたいと思うネーミングにする。例えば「農業」ではなく、「ファーマー」とかっこよくおしゃれにする。
- 収入、働く時間、リモート等を柔軟に選択できる働き方を推進し、働き易さをアピールし、若手を地域に定着させる。
- 最近は、多国籍の方も多く日本にきているため、多国籍の方にも対応できるようコミュ

ニケーション能力を養う。

- 但馬の良さをアピールし、但馬がパイオニアになる

## **B 一体感の欠如 連携不足**

発表者：仲山 啓一郎

### **現状と課題：**

- 但馬という地域が広すぎて、農業やものづくりなど、あらゆる分野で関係性が作りにくい。同じ市町内なら誰が何をしているかだいたい知っているが、他の市町とはなかなか連携がとりにくい。
- 自分たちの住んでいる地域だけではなく、もう少し広い範囲にも課題があることに目を向けるべき
- 「但馬」という名前の知名度が低い。

### **課題解決に向けて：**

- 楽市楽座の但馬版のような但馬地域全体でのイベントを開催することにより、他の地域との連携ができ、自分の地域のことも認識してもらえる
- 「但馬検定」の受検を必須にし、合格した子供は但馬内の高校に進学しやすくなる。
- 但馬の歌や、但馬のいいところを集めたカルタなどを制作することにより、遊びながら覚え、学べる。
- 「但馬国」という国を作り、地図に載せてしまうくらいの勢いで子供達に但馬という地域を学んでもらえれば愛着が沸く。
- 新たにイベント実施することにより、連携が生まれるが、それを実施するのはハードルが高すぎる。例えば演劇祭は演劇というテーマで但馬全体にフィールドを広げつつあるので、そこに関わる人を増やしていくけば、新たな連携も生まれる。

### **質疑：**

- 演劇祭にどのような形で関わっていくのか

### **応答：**

具体的には話ができるないが、既に関わっている方は新たな関係性づくりをしてほしい。関わっていない側も積極的に考えていくとよい。

## **C 観光誘客 周遊の仕組 交通課題**

発表者：飯田 勇太郎

### 現状と課題：

- JRや公共交通の減便により、観光客が駅から目的地まで移動できない
- 2種免許を持っている方が少なく、タクシー・バスの運転手不足が現状。現在、2種免許保持者は地域で1割程度である。
- 宿と体験をセット売りにしたいが、そこをつなぐ移動手段がないため機会が失われる。
- 高齢化により後継者不足が深刻化し、宿泊キャパシティも減少している。

### 課題解決に向けて：

- 観光協会が旅行業の機能を持ち、二次交通を旅行業の枠組みの中で運営する。宿泊施設や体験事業者と連携し送迎サービスを提供する。二次交通不足の解消により観光消費機会の増加に繋がる。
- 地域で副業活用等を利用し、2種免許保持者を増やす仕組みを構築する。地域住民（60～70代）をドライバーとして活用し、副業モデルとして導入。導入することにより、地域の高齢者の雇用創出と地域内での経済が循環し、地域として活性する。
- 観光ライドシェアの先進事例を但馬地域でモデル実施する
- 宿泊+体験+移動をセット化した商品を作る。観光客の利便性向上により、リピート率の増加も見込まれる。

### 質疑：

- 観光協会が旅行業を取得した場合、具体的にどんな内容になるか。

### 応答：

旅行業を持っていないと手数料をもらえないで、手間だけが増える。旅行業も持っていると、観光協会の収入にもなるし、送客も観光協会が手配することにより、旅館業さんの手間も省ける。車を持たないお客様の集客をしやすくなるので、観光協会が旅行業を取り入れる仕組みを構築するべき。

## D 人口減少 人手不足 高齢化

発表者：和田 晃

### 現状と課題：

- 企業のPRができていないことにより、但馬での新卒者での就職が少ない。
- 高校卒業後に大学に出たまま、帰ってこない方が多い。

- 少子化により、小・中・高の学生が少ない。そもそも生まれる人が少ない。
- 但馬は、時代の流れについていけない企業が多く、就職者や従業員が集まらない。またワークバランスが当り前の時代であり、求職者と企業とのマッチングが難しい。

### 課題解決に向けて：

- 県版の「タイミー」<sup>※1</sup>を導入してみてはどうか。タイミーは手数料が高いが、結構な応募数がある為、マッチングすれば、企業も求職者もお互いに良い結果になる。会社説明会等を実施しその場で企業側が良いと思った人を採用することもできる。また副業したい方や子育て女性でスキマ時間に活用できることも利点となる。
- 1ヶ月田舎暮らしをしてみたい方などに、空き家を活用した「おてつたび」<sup>※2</sup>をしてみてはどうか。短期に働くことにより、体験しながらお金が稼げるうえ、観光もできる。またそれが移住に繋がると人口も増える。

※1 タイミーとは、働きたい時間と働いて欲しい時間をマッチングするスキマバイト募集サービスです。

※2 おてつたびとは、「お手伝い」と「旅」を組み合わせた造語で、人手不足の地域で働きながら旅をするマッチングサービスです。

### 質疑：

- 仕事と観光の良い両立の仕方はあるか

### 応答：

「おてつたび」で来られた方に観光もできるようなプログラムができたらよい。観光協会や求人者、地域の方と繋がり、プログラムを進めて行くことが必要だと思う。

## 3 局長総括コメント

- 4つのグループとも、最終的に人口減少、担い手不足、連携不足という問題に行き着くが、これをなんとか食い止めるよう、今後取り組んで参りたい。